





2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 一枝小 学校】

1 実践テーマ	I <input checked="" type="radio"/> II <input type="radio"/> III <input type="radio"/> IV <input type="radio"/> V <input checked="" type="radio"/> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童220名 対象学年5年39名・6年29名 保護者・地域 30名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (PTAバザー) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技「ボッチャ」や外国人留学生との異文化交流の体験を通して、様々な立場の方々と共生する社会について考え、また、誰もが楽しめるスポーツについて関心をもち、自分自身もスポーツを楽しむ心の醸成を図る。
5 取組内容	<p>◆6年生の取組</p> <p>「異文化交流を通して、共生する社会について考えよう。」(1学期)</p> <p>① 2020東京オリンピック・パラリンピックから外国のスポーツや文化について課題をもつ。(1学期)</p> <p>② グループで関心のある国のスポーツや文化についてインターネットや図書資料などで調べ、まとめる。</p> <p>③ 講師(グローバルマナーズプリングス 江上いずみ 様)を招き「おもてなし」について話を聞き、日本流の礼儀作法を知る。保護者へも声掛けを行い10名参加した。(1学期)</p>   <p>④ 九州工業大学の留学生との交流を行い、日本文化の紹介や外国の文化やスポーツを知る。(1学期)</p>  

⑤ 異国文化についてまとめたことの報告会を行う。(1学期)



⑥ 友達との意見交流を通して学習を振り返る。(1学期)

※ 多様性を認め、誰もが活躍できる機会が与えられている。言葉は通じなくても思いは通じることを体感できた。

◆5年生の取組

「誰もが楽しめるスポーツについて考えよう！」(2学期・3学期)

- ① 2020 東京オリンピック・パラリンピックの競技について知る。
- ② 東京2020 応援ソングに「パプリカ」がなっていることを知り、学習発表会での演奏曲に選び、演奏する。



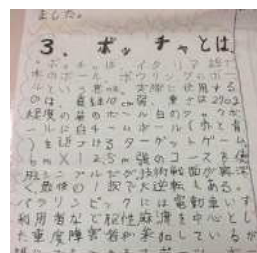
③ パラリンピック競技「ボッチャ」を行うことを知り、歴史やルールを調べる。

④ 「ボッチャ」を実際に体験する。

⑤ 「ボッチャ」の練習を行い、「ボッチャ大会」を行う。



⑤ 「ボッチャ」の体験を通して、だれでもスポーツを楽しめることについて考え、まとめ、全校に発表する。(2学期終業式)



⑥ 5年1組パラリンピックを行う計画を立てる。(3学期)

⑦ 5年1組パラリンピックを行う。

⑧ 友達と意見交流する中で、誰もが気持ちよくスポーツを楽しめるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。

◆PTAの取組(2学期)

- ① PTAバザーのゲームコーナーにおいて「ボッチャ」のコーナーを設け、ボッチャの広報を行った。体験した子どもや保護者は楽しみながら参加していた。



	<p>◆通級指導教室での取組</p> <p>① 本校に設置されている通級指導教室においても自立活動の一環として「ボッチャ」を活用している。通級の児童に合わせて少しルールを変えながら行っている。簡単なルールで楽しく活動している。</p>
6 主な成果	<p>○ 教師が意識付けを行い、課題をもって、調べる活動を行うことで2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。</p> <p>○ 異文化について調べたり、外国人留学生との交流や「おもてなし」についての講話を聞いたりすることにより、文化や生活様式の違いに気付き、また、日本文化のよさを見直すことに繋がった。 また、様々な立場の方々がいて、それを認め、共生する豊かな社会をつくらうとする心情を養うこともできた。</p> <p>○ ボッチャ等のパラリンピック競技を調べる活動や実際に体験することを通して、オリンピックだけでなくパラリンピックに対する興味関心が高まった。</p> <p>○ 「ボッチャ」の競技を通して、誰もが楽しめるスポーツを考える活動を通して、誰もが気持ちよく楽しめるスポーツのよさに気付き、自分自身もスポーツを楽しもうとする心情を養うことができた。</p> <p>○ PTA活動においてもボッチャを体験させることで地域への広報に繋がった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○ 近隣にある九州工業大学の留学生(6カ国)との交流体験や講師(グローバルマナースプリングス 江上いずみ 様)を招き「おもてなし」について話を聞く活動を仕組んだ。</p> <p>○ 保護者への声掛けをおこない、活動に参加していただいたり、PTAバザーにコーナーとして位置付けていただいたりして、その面白さを周知した。</p>
8主な課題等	<p>○ よりよい活動にするために、ゲストティーチャーや必要な用具を考えるとその費用が補助金だけでは運用が難しく学校予算でも厳しい場合がある。</p> <p>○ 交流活動や講話を聴く等の体験活動を行うときに、単発的に行うのではなく、しっかり教科等に位置付け「主体的・対話的で深い学び」つながる学習になるように指導計画をしっかり作成することが大切である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ 次年度2020年度は、5年・6年の総合的な学習の時間において東京オリンピック・パラリンピック開催を機会に課題設定を行い、国際理解や福祉(共生)・誰もが楽しめるスポーツについての探究活動をしっかり教育課程に位置付け、実践を深めていくようにする。</p> <p>○ 本年度購入した「ボッチャ」を特別支援学級の自立活動やクラブ活動等でも活用して全校的に広めていく。また、PTA行事にも貸し出しを行い、保護者や地域にも周知していく。</p> <p>○ 次年度引き続きオリンピック・パラリンピック教育を推進していき、東京オリンピック・パラリンピックへの児童の興味・関心を高め自分にできる参加の仕方を考え、実践できる態度を育てていきたい。</p>